

※詳細は、第9回大阪府新型コロナウイルス感染症対策協議会【資料3】参照

<現在の課題>

① 病床の更なる確保

国内においても変異株が確認されていることから、今後、さらなる感染拡大が生じる可能性を踏まえて病床の拡充が必要。

② 病院連携の場の提供

各圏域ごとの病床確保が進む一方で、新型コロナに係る医療データについて、医療機関との情報共有の場がない。

入院調整の円滑化や一般医療の影響を踏まえた新型コロナの入院医療体制を構築するためには、機能分担について議論する場が必要。

③ 転院・退院の支援

限られた医療資源を最大限活用するため、退院基準等を満たした患者のスムーズな転院・退院支援が必要。

<今後の方針>

●方針1 新型コロナウイルス感染症患者受入病床の拡充

- 重症病床の確保 新たに、プレハブの整備等により重症病床等の確保に取り組む医療機関を公募し、整備費用を支援する。
【予算案の概要】 医療機関に対し重症病床整備に係る建物や医療機器のリース料等を補助（予算額：15億円 ※30床程度を想定）
- 変異株への対応 今後、感染拡大が懸念される変異株については、感染状況、国の方針（療養方法や退院基準等）に注視し、病床の更なる確保など必要な対応を行う。

●方針2 病院連携の場の開催

陽性患者受入医療機関と退院基準等を満たした患者を受入れる医療機関との医療機関連携を進めていくため、各二次医療圏において、病院関係者と医療機能の実態等を共有していく。

●方針3 転院・退院の支援

退院基準等を満たした患者の転院支援を継続的に行い、病床を効率的に運用していく。

●方針4 宿泊・自宅療養の取組

療養者数の急激な増に備え、宿泊施設の適切な確保及び宿泊・自宅療養者への療養体制整備を引き続き実施。